

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 75人

② 算数 75人

5 留意事項

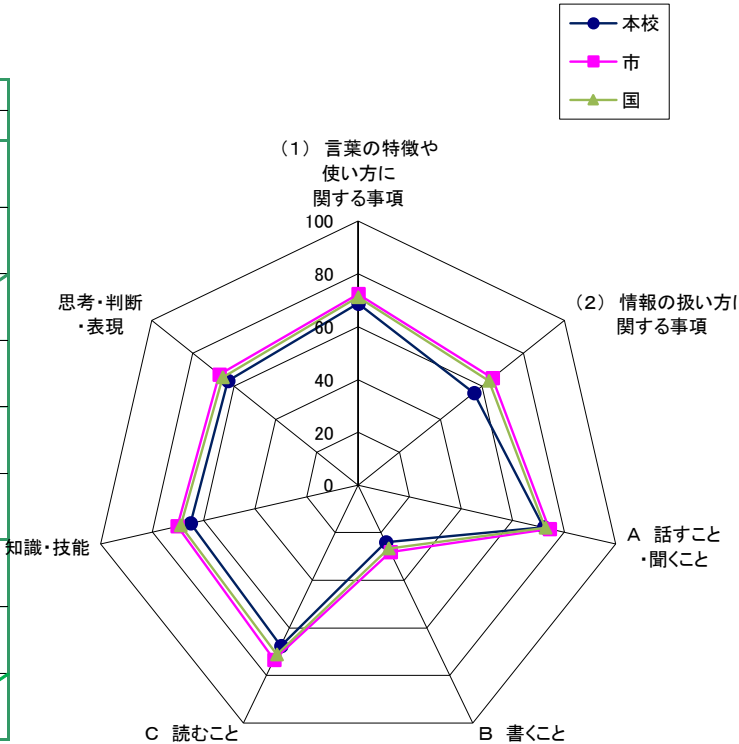
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.8	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	56.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	72.0	74.2	72.6
	B 書くこと	24.0	28.2	26.7
	C 読むこと	67.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	65.1	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

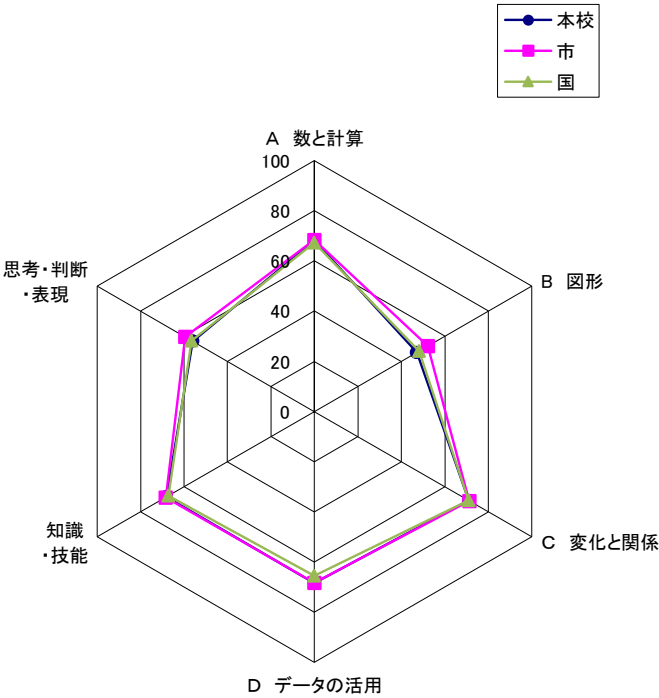
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかを見る問題では、本校正答率が98.7%であり、全国の平均正答率と比べて5.6ポイント上回っている。 ●敬語の使い方を理解しているかを見る問題では、本校正答率44.0%で、全国の平均正答率と比べて13.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字の読み書きに関しては、文の中で漢字を使う練習や繰り返しドリル学習など、日常的な指導を充実させていく。 ・敬語などの使い方を確認するとともに、言葉の特徴や使い方にに関する指導は、対話的な学習場面を意識して作り出すようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○情報と情報との関係付の仕方の理解をみる問題では、本校正答率64.0%で、全国の平均正答率より若干上回っている。 ●情報を読んで、それが原因と結果の関係になっていることの理解をみる問題では、本校正答率48.0%で、全国の平均正答率より16.7ポイント下回っている。	・抽象的な意味を表す語彙、例えば、「原因と結果」「事実と意見」「全体と部分」「反対と賛成」「中心と周辺」「目的と手段」などの関係や意味がわかるような例文を示し、丁寧に指導する。 ・情報が図表やグラフの場合もあることを意識して読み取ることを確認し、言語化する指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題は、本校正答率72.0%で、県の平均正答率と同程度である。 ●必要なことを質問しながら聞き、話しての伝えたいことや聞き手の聞きたいことの中心をとらえる問題では、本校正答率69.3%で、全国の平均正答率より若干下回っている。	・話し合う活動では、①役割を交代して話し合わせる、②質問したり答えたりする体験をする、③話し合いを聞いて感想を述べ合うなどの多様な方法を試みる。 ・他教科の学習でも対話的な学習場面を多く取り入れていく。
B 書くこと	●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかを見る問題では、本校正答率24.0%で、全国の平均正答率26.7%を若干下回っている。いくつかの条件にあわせて文章を書く時、何らかの条件に当てはまらない書き方をしている解答が多い。	・自分の考えを伝えるために、文章全体の構成や展開を考えることができるように、構成メモを使った文章作り、または、推敲などの時間をとり、書くことを整理する機会を多く設けるようにする。 ・100字程度の文章を条件に合わせて書く活動やキーワードを使った文章作りなどを多く取り入れていく。
C 読むこと	●文章を読んで、理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができるかを見る問題では、本校正答率50.7%で、全国の平均正答率より5.5ポイント下回っている。「グラフからわかること」について書いてない誤答が、25.3%ある。その他条件に合わない書き方で、誤答となった解答が、合わせて34.8%であった。	・読書を推奨し、様々な分野の文章に触れることで、考え方や語彙力を高めるようにする。 ・読んで分かったことを基に自分の考えを書く機会を意図的に設定する。 ・図表やグラフから読み取れることを言語化していく場面を意識して設定していく。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.2	68.4	67.3
	B 図形	47.0	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	71.0	71.2	70.9
	D データの活用	68.4	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.1	68.4	67.2
	思考・判断・表現	56.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○一の位が0である二つの2位数について、乗法の計算をする設問の正答率が、85.3%と国や市の平均よりも5ポイント以上上回っていてよくできている。 ●長さを求める2つの式について、それぞれがどのようなことを表しているのか選ぶ設問での正答率が国や市に比べ、若干低い。	・自分の考えを式や図、言葉を用いて記述させたり、発表させたりする機会を増やすことで、自信をもって学習に取り組めるようにする。
B 図形	○正方形の意味や性質について理解しているか問われた設問では、正答率が86.7%とよくできている。 ●正三角形の意味や性質について理解しているか問われた設問では、17.3%と正答率が低く、課題が見られる。	・基本図形の求積のしかた、意味や性質について理解を深められるよう、既習の復習を行い、内容の定着に努める。
C 変化と関係	○百分率で表された割合について理解しているか問われた設問では、正答率が50.7%と国や市の平均よりも約5ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうか考える設問において、国や市の平均よりも若干低くなっている。	・式の意味や立式の理由を説明したり、話し合ったりする時間を確保し、問題文で指示された通りに記述できるよう慣れさせていく。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係かどうか判断できるようにするために、一方が2倍、3倍、4倍…になると他方はどのように変化するかを考えられるよう助言していく。
D データの活用	○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問において、正答率が、81.3%と国や市の平均よりも約5ポイント上回っていてよくできている。 ●グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する設問の正答率が54.7%と国や市の平均よりも下回り課題が見られる。	・データの全体と部分、部分と部分の関係を考えながら、データの特徴や傾向をとらえられるようにしたり、複数のグラフから深く読み取ったり、分析したりすることを授業で大切にしている。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」についての肯定的回答は100%であった。
→今後もいじめは絶対に許さないという雰囲気を学校全体で作っていく。
○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表していましたか。」についての肯定的回答の割合は69.3%で、県62.7%や全国63.7%より上回った。
→6年生の授業でもICT等を活用しながら自分の考えを効果的に発表できる機会を増やしていく。
○「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」に対する肯定的回答の割合は88.0%で、県81.4%や全国78.8%より上回った。
→今後も学習が主体的なものとなるよう、児童の学習意欲を高める工夫をしながら課題解決型の学習を取り入れていく。
●「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」についての肯定的回答の割合は74.6%で、県の84.5%より10ポイント下回っている。同様に「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」についての肯定的回答の割合も県の平均を下回っている。→家庭と連携し、基本的な生活習慣の改善を図っていく。
●「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定的回答の割合は73.3%で、県や全国と比べ、約10ポイント低い。→目標や将来に向かうためのキャリアパスポートを活用し、目標をもって頑張る児童の育成をしていく。
●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」について「している。」「ときどきしている。」と回答した児童は70.7%で、県の76.1%に比べて低い。
→自主学習ノートを活用するなど、校内で自主学習への取り組みについての実践をしているが、習慣化されていない実態がある。毎日継続して家庭学習が習慣化できる方法や仕組みを考え働きかけていきたい。
●「学校の授業以外に普段、1日当たりどのくらいの時間読書をしていますか。」について「全くしていない」と回答した割合は40.0%で県や全国の平均と比べ15ポイント以上高い。「読書は好きですか。」に対する否定的回答の割合も、県や全国より高い結果となっている。
→学校図書館の活用や朝の読書など本に親しむ時間を意図的に設ける。

宇都宮市立細谷小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まとめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「自分にはよいところがある」と答えている児童は85.4%、「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童は96%と、どちらも全国平均と同程度であった。また「先生はあなたの良いところを認めてくれると思う」という質問に肯定的回答をした児童は、90.6%であった。今後も児童の良さを認め、励ます支援に努めながら、「自己有用感」を高める指導を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まとめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答をした児童は69.3%、「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答した児童が92%と、全国平均をそれぞれ6.6、4.5ポイント上回っている。今後も児童自ら選択しての課題の取組や、ICT等を活用した話し合い活動を重視した学習を重視し、学習意欲を高める工夫をしながら課題解決型の学習を進めていく。
安心して伝え合い、高め合える学びあいの重視	○「きらきら細谷っ子学習のやくそく」による学習習慣形成 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答えている児童は77.4%と、昨年度より肯定的回答の割合が2ポイント増えているが、全国平均を6.8ポイント下回った。今後、より一層意見を交流させる場を授業の中で設けていく。
基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○家庭学習の手引きを配付しての家庭と協力した自主学習の全校での推進 ○参考となる児童の自主学習ノートを掲示するなどをした自主学習の進め方の共有	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」について「している。」「ときどきしている。」と回答した児童は70.7%で、全国の県の76.1%に比べて低い。自主学習ノートを活用するなど、校内で自主学習への取り組みについての実践をしているが、習慣化されていない実態がある。毎日継続して家庭学習が習慣化できる方法や仕組みを考え働きかけていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章や言葉、式に表すことに苦手意識をもつ児童は減ってきているが、記述式問題の正答率が低く、無回答が多いことが課題である。	○相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、自分の考えを分かりやすく表現する(聞くこと・話すこと・話し合うこと・書くこと)力を育成するための言語活動の充実を図るとともに、根拠をもとに推測する力をさら	・授業において自分の考えを記述する機会を意識的に設けたり、自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 ・自主学習の中に一言日記や一行感想文などを取り入れたり、テーマを決めて自分の考えを書く機会を増やしたりしながら、要点をまとめた文章が書けるように繰り返し指導していく。